

令和8年 8月号

続谷駐在所だより

◆ 夏期における水難事故・山岳遭難防止について ◆

栃木県内の水難事故発生状況

令和7年中の水難事故発生状況

- 令和7年中は、11件14人(うち7人死亡)の水難事故が発生しました。
- 過去5年間の水難者47人のうち27人の方が亡くなっていることから、水難事故の特徴は、死に至る危険性が非常に高いところにあります。

夏期における水難事故の特徴

- 夏の時期は水に親しむ機会が増えるため、県内では河川における魚といや釣り、水遊び中の事故が多発する傾向にあります。
- 令和7年についても、水難事故11件すべてが、5月から9月の間に発生しています。



水難事故を防止するためのポイント

- 1 悪天候時は早期帰宅
- 2 ライフジャケットの着用
- 3 子供から目を離さない
- 4 飲酒後の水遊びは禁止



栃木県内の山岳遭難発生状況

令和7年中の山岳遭難発生状況

- 令和7年中は、70件80人(うち8人死亡)の山岳遭難が発生しました。
- 遭難の特徴は、年齢層別で見ると60歳以上が半数以上、態様別で見ると道迷いと転倒が半数以上を占めています。

- 遭難者の多くが登山計画書を提出していませんでした。

夏山登山における遭難の特徴

- 7月から8月の夏山シーズンは、12件12人が遭難し、主な原因は道迷い、転倒、滑落、病気でした。
- 夏山は軽装で入山する方が増加するため、滑落や転倒をした際に大きな怪我につながる、急な雨で体が冷えて低体温症になる、気温の上昇により熱中症になるなどのケースが増加します。



山岳遭難を防止するためのポイント

- 1 登山計画を立てる
- 2 装備品の点検
- 3 登山届、登山計画書の提出
- 4 天候の確認
- 5 山の情報収集をする
- 6 熊対策の徹底

